

《薬科学教育部博士前期課程 創薬科学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー			科目の教育目標
		【1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 倫理観及び責任感】	【3. 国際的発信力及び社会貢献】	
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		◎	○	生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。
	臨床心理学		◎		臨床心理学の基礎的理論・技法および今日の課題を説明できる。
	社会医学・疫学・医学統計概論	○	◎		社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする。
	英語論文作成法	○		◎	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。
	心身健康と環境ストレス	◎			ストレス評価法を修得する。
	生命科学の研究手法	◎		◎	医科学・生命科学研究に必須の初歩的技術が理解できる。
	医療系分野における知的財産学概論	◎	○	○	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。
各専攻系間の共通カリキュラム科目	臨床薬理学概論	◎			薬の効果に個人差が生じる要因を理解し、有効で安全な医薬品の適切な使用方法に関する基本事項を身につける。
	ゲノム創薬特論	◎			ヒトゲノム情報に基づく疾患発症の分子機構、創薬及び治療アプローチに関する講義を通じて、ゲノム創薬の考え方や実際について学ぶ。
	健康食品・漢方	◎			健康食品、漢方、天然薬物などの正しい知識と、適切な使用方法に関する基本事項を身につける。
専門科目	薬学英語特論			◎	The ultimate goals of this course are as follows 1. To be able to have an effective, personal outline for a research topic by the end of the course. 2. To give you an understanding of principles underlying English scientific writing, through group work, practice and discussions to gain the ability to write scientific papers acceptable in international journals. 3. To build your capacity giving effective science talks to describe your research.
	創薬科学特論	◎			薬学系独自の特色ある創造性豊かな創薬科学研究を展開するうえで、創薬科学研究者・教育者として必要とされる「有機化学を基軸とする基礎知識」の修得を目的とする。
	創薬分析・理論化学特論	◎			・自動連続分析法や分離分析法の基礎と応用を理解し、説明できる。 ・タンパク質定量解析及び分子薬動力学に基づく薬剤分子設計の基礎と応用を理解し、説明できる。
	薬剤動態制御学特論	◎			薬剤動態・応答性を制御する因子としての遺伝子多型やタンパク質発現、さらには薬物の生体膜透過や血漿タンパク質・脂質との相互作用などについて、薬物効果や副作用などの客観的パラメーターと肝薬物代謝酵素の遺伝多型などの個人背景情報とを関連付けて考察する能力を習得する。また、薬剤動態制御における膜輸送タンパク質の機能やドラッグデリバリーシステム（DDS）への応用についても学ぶ。
	創薬先端合成化学特論	◎			有機合成化学に関する高度な知識を修得し、その応用法について学習する。 Acquisition of an advanced knowledge about synthetic organic chemistry and learning of its application.
	医薬品創製資源学特論	◎			医薬品の開発に重要な、天然物化学ならびに核酸化学に関する基礎知識を習得するとともに、創薬研究への展開について学習する。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 倫理観及び責任感】	【3. 国際的発信力及び社会貢献】	科目の教育目標
		幅広い教養と論理的思考を備え、創薬科学の専門知識を体系的に修復し、創薬に関する問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に展開する能力に加え、専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。	コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を備え、創薬科学の分野において自立して行動できる。	国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけ、世界水準を目指す研究を通じて、創薬・製薬・育薬の研究者、技術者として社会に貢献することができる。	
	創薬遺伝子生物学特論	◎			医薬品の開発や作用機構の解明に際しては、生体の機能発現機構を理解することが重要になる。本講義では遺伝子やタンパク質の発現、細胞生物学の基礎をふりかえりながら、医薬品の研究開発の動向を理解することをめざす。
	医薬品安全性学特論	◎			安全で有効な医薬品開発に必要な基礎知識と応用能力の修得および医薬品開発における現状の理解を目的とする。
	健康生命薬学特論	◎			健康を維持する上で、生活習慣病などの疾患について、その病態や疾患発症メカニズムおよび予防法や治療法などについて説明できる。
	薬科学演習 1	◎	○	○	薬科学教育部に所属する22研究室の教員が、所属する大学院生数名と輪読や討論形式を通して、各専門分野における創薬や育薬関連の最新研究動向や研究方法について教授し、世界的研究成果を挙げられような研究者の初期育成を目指す。
	薬科学特別研究	◎	○	○	指導教員が、担当の大学院生と相談し創薬や育薬に関連する研究題目を設定後、研究の進め方や実験方法の教授ならびに実験結果のまとへの助言を行い、研究成果を修士論文にまとめる。